



おおたかどや山に設置したWINS

## おおたかどや山標準電波送信所にWINS設置

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)のおおたかどや山標準電波送信所に、気象情報ネットワークシステムWINSを設置しました。これまで運用されていた気象観測機器および気象情報収集システムを更新したものです。

標準電波送信所は、電波時計や周波数基準源に利用される標準電波を供給しています。同所の維持と安定運用のためには、刻々と変わる周辺の気象情報を把握し、雷害等も回避しながら屋外作業を行う必要があります。この気象情報の観測・収集に明星電気のWINSが役立っています。

(担当: 気象防災事業部)



河川への流出部に設置されたPOTEKA水位計

## 伊勢崎市上下水道局向けPOTEKA水位計を設置

伊勢崎市上下水道局南部第一排水ポンプ場に、オプションセンサーとして水位計を組み合わせたPOTEKAが設置されました。

群馬県伊勢崎市の低地地帯は、地盤高が洪水時の河川水位より低くなっているため、大雨の際には河川に排水することができず、内水被害が生じる危険があります。その対策として設置された南部第一排水ポンプ場では、近隣を流れる広瀬川からの逆流を防ぐために水位状況を監視しつつ、ポンプや水門制御によって大雨などにおける排水処理を行う必要があります。このため、広瀬川につながる場所にピンポイントにPOTEKA水位計を整備し、雨と水位の状況を常時監視しています。

明星電気は、設置が容易なPOTEKAとオプションセンサーを組み合わせて、地域固有の防災課題の解決に貢献していきます。

(担当: 気象防災事業部)



新放球所での観測トレーニング

## 新放球所、運用開始

ラジオゾンデ放球所を茨城県守谷市から水戸市へ移転しました。

新しい放球所は、水戸駅から車で20分程の郊外にあり、周囲が田畑に囲まれ障害物も無く、ラジオゾンデの放球に適した場所となっています。また、太平洋まで約20kmの距離にあり、以前の放球所よりラジオゾンデが内陸に落下する可能性も低くなっています。この放球所で、今年の南極越冬隊(63次南極観測隊)隊員立会のもと、露点ゾンデSKYDEWの観測トレーニングを実施しました。南極で地上から上部対流圏や下部成層圏までの水蒸気量を測定し、温暖化の原因となる放射エネルギーの収支などの解析に役立てられます。

この放球所を、ラジオゾンデの放球試験や観測トレーニングなど高層気象観測の発展に貢献できるよう運用していきます。

(担当: 気象防災事業部)

【文中: 敬称略】

## Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。